陳情型 要 求 型 住宅開発中の羽曳が丘

2 6 号

2 ふれあいの郷 (1)

大阪府・ふれあいの郷整備構想 平成4年発表 大阪府・羽曳野市へ提案書12回提出

羽曳が丘 新歩道完成

新住宅地 9-10 丁目完成

現在の羽曳が丘

人口:11,000 人 戸数:3,650 戸 17 町会

S39設立-羽曳が丘町会連合会

参加のまちづくり活動

S57設立-羽曳が丘青少年育成協

羽曳が丘ソフトボール同好会

①~⑧(⑤⑥を除く)が住宅開発され、新しい地域の拠点つくりに取組みました。

羽曳が丘町会連合会/特別調査部会

青年の森つくる会 ふれあいの郷考える会 まちづくりの会

H 1 6 年設立 H 1 4 年設立

町会連合会·E&L· 育成協がビオトープ 公園の提案活動を実 施しています。

羽曳が丘プロジェクトチーム

H 2 2 年設立

(1)砂浜公園 (2)マンモス球場



砂浜公園でキャンプ



マンモス球場へ集まる子供たち



ソフトポール開始

子どもたちの遊び場

昭和40年代は、5丁目に砂浜の ような広場ー砂浜公園と、西5丁目 に大きな広場ーマンモス球場があ りました。子供たちが泥だらけにな って、野生的に遊んでいた情景と、 ソフトボールを思い出します。この 広場は昭和52年には住宅と民間 テニスコートになりました。

(3)羽曳が丘グランド



子供たちに広場・グランドをつくった



子供のサマーキャンプ



大人のソフトボール



羽曳が丘 20 周年記念運動会/町会連合会主催

羽曳が丘20周年記念へ3000人

昭和52年にマンモス球場がテニスコートに なったので、大人たちは子供たちの遊び場を求 めて、現西7丁目の草原に向かいました。有志 5人の草刈から始まって、200人の住民が整 地作業に参加しました。キャンプ・ソフトボー ル等地域の交流拠点になりました。

昭和62年開催の羽曳が丘20周年記念運動 会には、約300人の住民が集まりました。

|④ふれあいの郷 ⑤緑いきいきゾ-

H 5 年設立



H3年設立





音楽祭9回開催



オオタカの保護活動

ふれあいの郷交流会 里山保全活動

昭和63年、羽曳が丘グランドが使用不可と なり、青年の森をつくる会ではふれあいの郷予 定地で地域交流行事を9年間開催しました。 平成4年にはふれあいの郷整備計画が発表さ れ、私たちは陸上競技場に反対して、自然環境 保全の調査と提案活動を開始しました。ふれあ いの郷に隣接する緑いきいきゾーンの里山保 全活動・オオタカの保護活動に取組みました。

⑥トンボ池



NPO法人 羽曳が丘E&L



スポーツ公園完成

トンボ池をつくった



トンボ池整備



トンボ池交流活動



ビオトープフェスタ開催

ビオトープは住民参加の拠点

平成9年、ゴルフ場跡地の緑の丘陵が使用不 可となり、次に挑戦したのは、ふれあいの郷ビ オトープ提案を視点にした羽曳が丘5丁目での トンボ池つくりでした。羽曳野市からトンボ池 の運営の実績が評価されてビオトープが実現し ました。また、大阪府・羽曳野市への住民提案 活動・アンケート調査などにより、羽曳が丘新 歩道・羽曳が丘トンネルが実現したと思います。

⑧ビオトープ公園

H22 年 10 月

羽曳野市へ要望書提出

新ビオトープ要望図



平成24年3月完成

地域力・まちづくり・地域愛着

前ビオトープが住宅地になります。 自分たちが汗して植えた樹木・放流し たメダカ・子供たちの成長に接して感 動しました。地域の拠点がなくなると 地域交流・地域愛着がなくなります。 関係機関から羽曳が丘のまちづくり の継続は地域力と地域愛着の成果と 言われています。